

2020
BEST
FACULTY
MEMBER



University of Tsukuba

2020 BEST FACULTY MEMBER

人文社会系	小野 正樹	教授	1
人文社会系	山田 重郎	教授	2
人文社会系	板橋 悠	助教	3
ビジネスサイエンス系	西尾 チヅル	教授	4
数理物質系	坪井 明人	教授	5
数理物質系	近藤 剛弘	准教授	6
数理物質系	藤田 健志	助教	7
システム情報系	金子 暁子	准教授	8
システム情報系	金澤 輝代士	助教	9
生命環境系	恩田 裕一	教授	10
生命環境系	角替 敏昭	教授	11
人間系	外山 美樹	准教授	12
体育系	尾縣 貢	教授	13
体育系	藤井 直人	助教	14
芸術系	下田 一太	准教授	15
芸術系	池田 真利子	助教	16
医学医療系	家田 真樹	教授	17
医学医療系	櫻井 武	教授	18
医学医療系	玉岡 晃	教授	19
医学医療系	平松 祐司	教授	20
医学医療系	榎 正幸	教授	21
医学医療系	森 千鶴	教授	22
医学医療系	丸島 愛樹	講師	23
図書館情報メディア系	小泉 公乃	助教	24
計算科学研究センター	天笠 俊之	教授	25
生存タリミクス研究センター	岩崎 憲治	教授	26
筑波大学	弘山 勉	准教授	27

小野 正樹 教授

所属 人文社会系

専門分野 日本語学
日本語教育



— 業績 —

日本語のポライトネス研究と語彙・コロケーション研究を専門とし、2015年から日本語教育学会の理事を務める。2019年度に「社会的要請に対応可能な日本語教師養成の拠点形成」（日本学術振興会研究拠点形成事業）が採択された。文部科学省教育関係共同利用拠点「日本語・日本事情遠隔教育拠点」の責任者として活動を牽引・総括した。カザフ国立大学と本学のCiC協定締結の実現において主導的な役割を果たし、本学のグローバル人材教育事業の発展に貢献した。

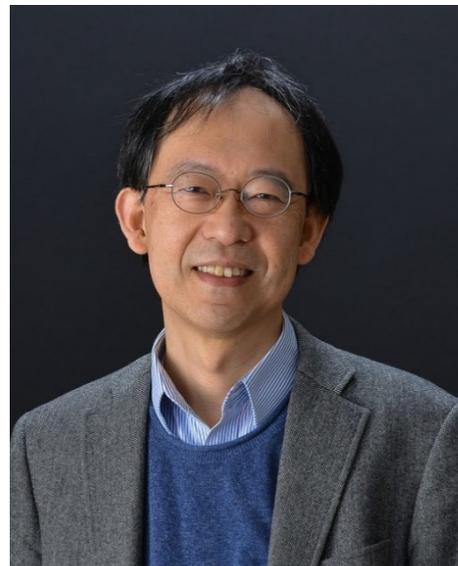
略歴

フンボルト大学客員講師、上智大学比較文化学部日本語・日本文化学科非常勤講師、筑波大学人文社会科学研究科准教授等を経て、平成27年10月より現職。

山田 重郎 教授

所属 人文社会系

専門分野 楔形文字学・古代西アジア研究



— 業績 —

新学術領域研究「都市文明の本質：古代西アジアにおける都市の発生と変容の学際研究」（2018年度～）の領域代表者として、先駆的研究視点で領域研究を主導している。2019年度は、国内外で出版された論文集と学術雑誌に4件の英語論文を発表している。学内では、西アジア文明研究センターの運営に中心的役割を果たし、人文社会系の学術をリードしている。

略歴

エルサレム・ヘブル大学非常勤講師、中近東文化センター共同研究員、筑波大学歴史・人類学系助教授等を経て、平成20年4月より現職。

板橋 悠 助教

所属 人文社会系

専門分野 考古学
自然人類学



— 業績 —

トルコ、シリア、カザフスタン、中国などの先史時代遺跡で現地調査を行い、遺跡出土人骨・動物骨の化学分析によりヒトの古食性や動物の家畜化、人類社会発展の検証を行っている。2019年度には、査読付国際誌2件、日本語論文集論文1件、中国語遺跡報告書2件などの業績を挙げた。2020年には日本人類学会や日本有機地球化学会から表彰を受けるなど、文理の垣根を超えた分野で評価を受けている。

略歴

東京大学総合研究博物館特任研究員を経て、令和元年5月より現職。

西尾 チヅル 教授

所属 ビジネスサイエンス系

専門分野 マーケティング



— 業績 —

マーケティングならびに環境分野の専門家として多くの研究業績を挙げるとともに、当該分野における学会活動や産学官の連携活動に積極的に参画している。特に2017年からは、日本学術会議会員として、政策提言、研究者ネットワークの構築、社会啓発等の活動に精力的に取り組んでいる。日本商業学会、日本マーケティング・サイエンス学会等で理事を務め、マーケティング関連分野の学会活動において中心的な役割を果たすと共に、環境とマーケティング分野の専門家として政府審議会等の委員を務める。

略歴

筑波大学社会工学系講師、助教授等を経て、平成17年3月より現職。平成26年4月～平成30年3月、ビジネス科学研究科長。令和2年4月～現在、人文社会ビジネス科学学術院長。

坪井 明人 教授

所属 数理物質系

専門分野 数学基礎・応用数学



— 業績 —

有限構造の研究に無限構造を本質的に用いる研究を推進し、研究成果は、当該分野の国際的学術誌に受理されている。前期課程学生2名の指導において、複数回の成果発表を行わせるなど、成果を挙げた。特に、純粋数学分野では極めて難しい、国際研究集会での成果発表に至った。

略歴

筑波大学数学系助手、講師、助教授等を経て、平成18年6月より現職。

近藤 剛弘 准教授

所属 数理物質系

専門分野 薄膜・表面界面物性
物理化学
ナノ材料化学



— 業績 —

ホウ素と水素で構成される新規二次元物質「ホウ化水素シート」に関する研究を行っている。本物質を初めて合成し、その特異な機能を発見し、応用に向けた研究を進めており、2019年度には Nature Communications等の著名な国際学術誌への論文掲載、招待講演9件を含む32件の学会発表など、目覚ましい成果を挙げた。科研費基盤研究（B）、新学術領域研究（公募）、挑戦的研究（萌芽）等、外部資金も多く獲得している。

略歴

理化学研究所基礎科学特別研究員、筑波大学大学院数理物質科学研究科助教、筑波大学数理物質系講師等を経て、平成27年1月より現職。

藤田 健志 助教

所属 数理物質系

専門分野 有機合成化学
触媒化学



— 業績 —

有機フッ素化学において、新しい分野を切り開く極めて先駆的な優れた業績を挙げ、有機合成化学協会「令和元年度有機合成化学奨励賞」を受賞した。また、当人を筆頭著者とする総説論文が、一流学術雑誌であるAngewandte Chemie International Edition誌の2018-2019「The top 10% most downloaded papers」に選出された。

略歴

シンガポール南洋理工博士研究員を経て、平成22年12月より現職。

金子 暁子 准教授

所属 システム情報系

専門分野 流体力学
混相流
可視化計測
熱流体



— 業績 —

熱・流体力学および混相流工学の分野において、原子力から環境負荷低減技術、医療応用、宇宙環境利用まで積極的に幅広く研究を進めている。2019年度はPhysics of Fluids等を含む査読付学術雑誌論文10件、査読付国際会議論文24件が採択されている。外部資金の獲得においては、研究代表者として科学研究費基盤研究（C）のほか受託研究2件を獲得するとともに、研究分担者として多くの企業、研究所と共同研究を実施している。

略歴

東京大学大学院工学系研究科助手、筑波大学大学院システム情報工学研究科講師等を経て、平成26年1月より現職。令和2年4月～現在、理工情報生命学術院長特別補佐。

金澤 輝代士 助教

所属 システム情報系

専門分野 確率過程
統計物理学
経済物理学



— 業績 —

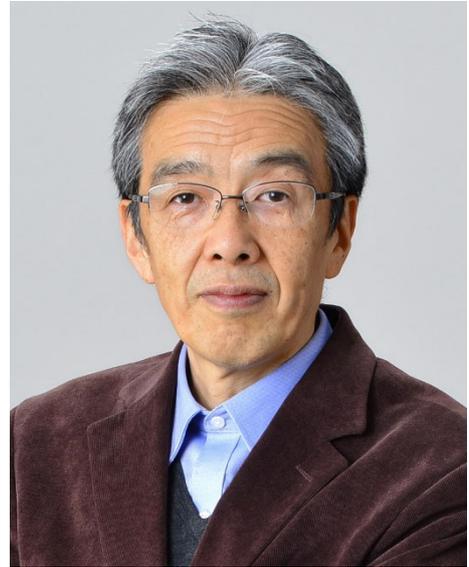
確率過程・統計物理学・経済物理学を専門とし、高次元の確率過程を統計物理学の手法を用いて縮約する研究を行っている。その応用として生物物理系のミクロ力学系を縮約する研究を執り行い、ミクロ力学からレヴィ・フライトを体系的に導出する理論的手法を開発した。本研究はレヴィ・フライトをミクロ力学から第一原理的に導出した世界初の研究成果であり、さまざまな系の異常拡散の微視的な視点による理解・制御につながることで期待される成果であることから、2019年度にはNatureに筆頭著書論文が掲載された。

略歴 東京工業大学助教等を経て、平成31年4月より現職。

恩田 裕一 教授

所属 生命環境系

専門分野 地理学
自然災害科学・防災学
森林科学



— 業績 —

福島第一原発事故により放出された放射性核種の環境動態を中心に研究を行っている。これまでにCREST 2件、新学術領域研究1件の代表を務め、多くの研究成果を上げてきた。2019年度には16件の論文が発表され、トップジャーナルに多数掲載された。アイソトープ環境動態研究センター長として尽力し、2019年度には同センターが共同利用・共同研究拠点「放射能環境動態・影響評価ネットワーク共同研究拠点」の中核として認定された。

略歴

名古屋大学農学部助手、筑波大学地球科学系講師、助教授等を経て、平成21年3月より現職。

平成27年4月～現在、アイソトープ環境動態研究センター長。

角替 敏昭 教授

所属 生命環境系

専門分野 岩石・鉱物・鉱床学
地質学
地球宇宙化学



— 業績 —

主に南インド、南極、スリランカ、南部アフリカに産出する数億年前の大陸衝突によって形成された変成岩の形成条件について、卓越した成果を挙げている。国際ゴンドワナ研究連合副会長、南極地質研究委員会委員等を務め、国際的な学術の発展に貢献している。学内運営では、大学院学位プログラム化への貢献、中国地質大学とのダブルディグリープログラムの運営、新たな英語プログラムの立ち上げを行った。

略歴

島根大学教育学部助手、講師、助教授、筑波大学地球科学系講師、助教授等を経て、平成25年4月より現職。
令和2年4月～現在、生命環境学群地球学類長。

外山 美樹 准教授

所属 人間系

専門分野 教育心理学



— 業績 —

目標達成のための動機づけにおける制御焦点の研究に多角的に取り組み、特に教育心理学・社会心理学・スポーツ心理学の分野での研究を牽引している。2019年度は、国内トップレベルの論文誌である心理学研究及び教育心理学研究に筆頭著者の論文を発表するなど、顕著な業績を挙げた。「制御焦点とパフォーマンスの関連－他者の影響に焦点を当てて－」（科研費基盤研究（C））が採択され、ライバルの存在が個人の動機づけに及ぼす影響の検証を行っている。

略歴

筑波大学心理学系助手、流通経済大学講師、鹿屋体育大学体育学部講師等を経て、平成20年4月より現職。

尾 縣 貢 教 授

所属 体育系

専門分野 スポーツコーチング
スポーツマネジメント



— 業績 —

日本オリンピック委員会選手強化本部長として東京オリンピックに向けての強化活動の陣頭指揮を行った。東京オリンピック日本選手団総監督として33競技の活動の取りまとめを行い、それぞれの競技団体の戦略プログラムの評価、改善を協議した。日本陸上競技連盟の専務理事として、競技陸上に加え、人々の健康・幸福を追求するウェルネス陸上を推進した。他に、日本コーチング学会副会長、日本陸上競技学会会長などの要職を務めている。

略歴

大阪女子大学助手、奈良教育大学教育学部助教授、筑波大学体育科学系講師、助教授等を経て、平成21年12月より現職。

藤井 直人 助教

所属 体育系

専門分野 運動生理学



— 業績 —

競技パフォーマンス向上のためのトレーニングやコンディショニング、食事法に関する生理学研究、熱中症予防に向けた体温調節の基礎研究を専門とする。運動生理・環境生理学領域の一流国際誌に多数の論文が掲載された他、科学研究費若手A（継続）に加えて新たに挑戦的研究（萌芽）を獲得した。2019年11月には河本体育科学研究奨励賞を受賞した。国際学会実行委員（ICEE、オランダ）を務める。

略歴

宇都宮大学教育学部非常勤講師、オレゴン大学博士研究員、オタワ大学博士研究員等を経て、平成28年11月より現職。

下田 一太 准教授

所属 芸術系

専門分野 建築史
建築遺産
考古学



— 業績 —

アンコール遺跡群（カンボジア）、ボロブドゥール寺院（インドネシア）等の東南アジアにおける文化遺産の研究、保存修復、人材育成事業を手掛け、それらの成果を国際シンポジウムやジャーナルにて公開・発表してきた。近年は日本政府が申請するユネスコ世界遺産の推薦業務にも従事し、文化財行政の最前線の課題に取り組むとともに、それらの知見を積極的に活かした実学としての大学教育の実践に尽力した。

略歴

早稲田大学理工学術院総合研究所講師、日本国政府アンコール遺跡救済チーム現地所長、筑波大学芸術系助教、文化庁文化財調査官等を経て、令和2年4月より現職。

池田 真利子 助教

所属 芸術系

専門分野 人文地理学
都市研究
観光学



— 業績 —

ベルリンをフィールドに、都市文化や芸術活動、夜の創造性に関する研究の他、ユダヤ遺産や東ドイツ時代のヘリテージの音楽・芸術空間としての利活用やその歴史について研究を行う。大学院では、主に英語講義・演習を担当し、UNESCO Chair Programの運営の他、実務・研究者を招聘した国際シンポジウム開催、イギリスやドイツ等の欧州の大学とオンラインライブ授業を設計・実施するなど、研究・教育の発展に大いに貢献した。また、外部資金による国際共同研究と、国際共著論文の執筆を意欲的に行った。また、ダイバーシティ・アクセシビリティ担当委員や自然保護寄附講座運営等の委員等を多数務めた。

略歴 筑波大学生命環境系博士特別研究員、日本学術振興会特別研究員等を経て、平成31年2月より現職。

家田 真樹 教授

所属 医学医療系

専門分野 循環器内科学



— 業績 —

JST-CREST等の代表者として、重症心不全に対する心筋再生治療の実現に向けて独創的・先駆的な基盤研究を推進してきた。臨床研究においても、循環器疾患に対する新しい診断・治療の開発に関して国際的にトップレベルの研究成果を発表している。2019年度は、科研費基盤研究（B）等のほかに、大型のAMED研究費2件を代表者として獲得し、さらにNature Communicationsなど海外トップジャーナルに論文を発表した。

略歴

宇都宮病院内科専修医、足利赤十字病院内科専修医、Gladstone Institute Research Scientist、慶應義塾大学医学部助教、専任講師、准教授等を経て、平成30年4月より現職。

櫻井 武 教授

所属	医学医療系
専門分野	視床下部 神経ペプチド 摂食行動 睡眠 覚醒 代謝・体温制御



— 業績 —

新学術領域の代表として研究を推進するとともに、これまで行って来た睡眠研究をさらに推進し、Nature Reviews Neuroscienceにオレキシン欠損で発症するナルコレプシーの総説を共著者として発表するとともに、Nature Communicationsに記憶定着における睡眠の機能を解析した論文を共著者として発表するなど、筑波大学の睡眠研究を世界に発信した。冬眠様状態の誘導に関する論文をNature誌に責任著者として発表した。国際統合睡眠医科学研究機構副機構長を務め、同機構の発展に貢献した。

略歴

筑波大学基礎医学系講師、同助教授、筑波大学大学院人間総合科学研究科准教授、金沢大学医薬保健研究域医学系教授等を経て、平成28年4月より現職。

玉岡 晃 教授

所属 医学医療系

専門分野 神経内科学
神経化学
アルツハイマー病
パーキンソン病
筋萎縮性側索硬化症



— 業績 —

附属病院の医療の質の向上に尽力するとともに、茨城県の難病医療診療体制を整備・構築した。また、有機ヒ素中毒による健康被害者の救済に貢献するとともに、有機ヒ素中毒の病態を明らかにした。更に、蛋白質の分子病態という観点から、神経変性疾患の発症機構を明らかにするとともに、疾患修飾薬の臨床試験を統括するなど、神経難病を中心とした難病医療の推進・発展に対して多大な寄与をなした。

略歴

東京大学医学部附属病院医員、東京都老人総合研究所研究員、ハーバード大学医学部研究員、筑波大学臨床医学系講師、助教授等を経て、平成17年12月より現職。

平成22年4月～現在、筑波大学附属病院副病院長。

平松 祐司 教授

所属 医学医療系

専門分野 心臓血管外科学



— 業績 —

心臓血管外科特に小児心臓外科に関する先進的治療体系を整備し、その精度向上および人材育成に努めており、昨年は小児用補助人工心臓を国内10番目の実施施設として導入した。県内中核病院に人材を広く派遣し、心大血管手術の地域ネットワーク構築にも貢献している。霊長類医科学研究センターとの共同研究に長年携わり、産学共同研究として低ビタミンK納豆の開発を行っている。

略歴

ペンシルバニア大学胸部外科研究室、フィラデルフィア小児病院、聖隷浜松総合病院、筑波大学講師、准教授等を経て、平成25年11月より現職。

平成30年4月～現在、筑波大学附属病院副病院長。

梶 正幸 教授

所属 医学医療系

専門分野 神経生理学・神経科学一般
神経化学・神経薬理学
医化学一般
病態医化学
分子生物学
細胞生物学
発生生物学



— 業績 —

医学群長として、医学類、看護学類、医療科学類の運営、調整、問題解決に尽力した。特に医学類の地域枠入試に関連して、従来の募集定員での確保に貢献した。また、全国医学部長病院長会議（理事）等として、国内の医学教育の企画・実施に大きな貢献を果たした。学内では、総合学域群設置と新入試実施に向けた調整を行った。マスコミ対応、新型コロナウイルス対応を含め、学内外での貢献について高く評価されている。

略歴

京都大学医学部助手等を経て、平成9年12月より現職。
令和2年4月～現在、医学群医学類長。

森 千鶴 教授

所属 医学医療系

専門分野 臨床看護学



— 業績 —

4つの学術団体の評議員、看護教育研究学会会長、日本精神保健看護学会副理事長を務める。国立大学保健医療代表者会議看護分科会においては、大学院教育検討委員会委員長として国立大学42校の大学院教育について調査を行い、その結果を各大学に発信した。また、学内運営においては、看護学類長および看護科学専攻長の重責を担い、特に、Japan-Expertプログラムの運営に尽力し、アジア各国の留学生に充実した学習の機会を与えた。

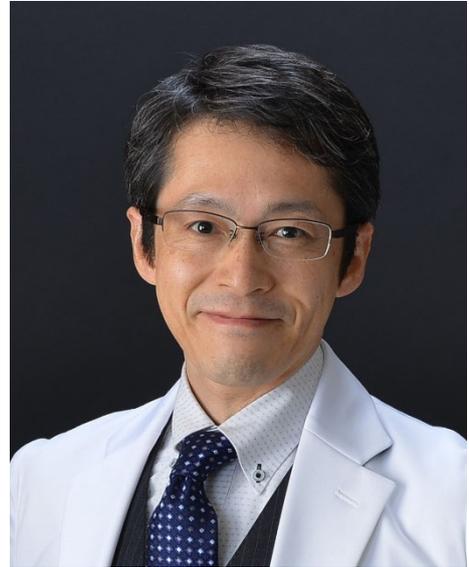
略歴

山梨医科大学医学部講師、助教授、教授等を経て、平成19年4月より現職。令和2年4月～現在、人間総合科学学術院人間総合科学研究群看護科学学位プログラムリーダー。

丸島 愛樹 講師

所属 医学医療系

専門分野 脳神経外科、脳卒中
救急・集中治療
神経保護
再生医療
生体医工学



— 業績 —

小児脳性麻痺の運動機能障害に対する装着型サイボーグHALの医師主導治験、神経保護薬、神経再生医療の研究でAMED、科研費の外部資金を代表として獲得し、多数の英文原著論文を発表、社会実装を目指した研究開発に取り組んでいる。附属病院救急・集中治療科、脳卒中科、脳神経外科のコアメンバーとして高度救命救急センター診療、脳血管内・外科手術の高難度治療を実施している。病院前救護の社会貢献、卒前卒後教育、外国人対象大学院講義を行い、臨床・研究・教育に情熱を持って関与している。

略歴

筑波大学附属病院脳神経外科、東京都神経科学研究所研究生、産業技術総合研究所ナノテクノロジー研究部門研究生、ドイツ学術交流会(DAAD)奨学生、シャリテー医科大学ベルリン脳神経外科研究員等を経て、平成25年9月より現職。

小泉 公乃 助教

所属 図書館情報メディア系

専門分野 図書館情報学・人文社会
情報学，経営学



— 業績 —

パブリックガバナンスと公共圏という2つの視点から図書館政策・経営に関わる総合的な研究を積極的に推進してきた。2017年度から国際共同研究加速基金（日本学術振興会）を基礎とした共同研究、国内外での招待講演、地方公共団体の外部有識者、新任図書館長研修等を通じ、当該分野を牽引している。代表的な学術書は、Inherent Strategies in Library Management（2017）。日本図書館情報学会賞（2018年度）を受賞。

略歴

慶應義塾大学文学研究科助教、ピッツバーグ大学情報学研究科客員研究員等を経て、平成27年4月より現職。平成30年度にはオスロ・メトロポリタン大学において客員研究員。

天笠 俊之 教授

所属 計算科学研究センター

専門分野 データベース・ビッグデータ



— 業績 —

ビッグデータの管理、検索、マイニング等に関する研究を推進し、生命環境系の研究グループとの共同研究による機械学習を用いた大腸菌の増殖要因の分析、センサー内蔵クッションからのデータによる高精度な利用者の着座姿勢推定、大規模グラフ分析の高速化など、数々の研究業績を挙げた。さらに、NICTによる日欧共同研究プロジェクトBigClouTにおいて、最終年度の成果取りまとめを中心となって行った。

略歴

奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科助手、筑波大学大学院システム情報工学研究科講師、准教授等を経て、平成29年4月より現職。

平成31年4月～現在、情報ガバナンス基盤室長。

岩崎 憲治 教授

所属 生存ダイナミクス
研究センター

専門分野 構造生物化学
腫瘍生物学
生体関連化学



— 業績 —

構造生物学分野の第一人者として、Natureに国際共同研究の成果を1編発表した他、Nature Structural & Molecular Biology誌等を含む計6編を著名な国際学術誌に発表しており、極めて優れた成果を挙げている。研究代表者として「天然3D結晶型光センサーオルガネラのアーキテクチャー」（科研費基盤研究（B））を獲得した。また、製薬企業との共同研究経費受入を開始している。

略歴

大阪大学超高压電子顕微鏡センター特任研究員、大阪大学蛋白質研究所附属プロテオミクス総合研究センター助教授等を経て、平成30年10月より現職。

弘山 勉 准教授

所属 筑波大学

専門分野 陸上競技コーチング
組織マネジメント
中長距離走
マラソン・駅伝



— 業績 —

「筑波大学箱根駅伝復活プロジェクト」の中心となり、チームの意識改革を行い、2019年度には26年ぶりに箱根駅伝本選出場を果たした。トップアスリートの育成のみならず、様々な分野で活躍できる学生の育成を目的に、体育系や学外組織と連携を図った。



26年振りに桐の葉が箱根路へ

クラウドファンディングや筑波大学基金により



箱根駅伝出場を決め歓喜する筑波大生

多額の寄附を獲得し、SNSを活用した情報発信にも務め、本学のブランディングに大きく貢献した。

略歴

株式会社資生堂、株式会社エポーリュ代表取締役、筑波大学特任助教等を経て、平成28年2月より現職。



筑波大学
University of Tsukuba

筑波大学BEST FACULTY MEMBER
表彰制度に基づき、2019年度の
教育研究活動において、極めて優れた
業績を上げたと認められ、表彰された
本学教員を紹介しています。

編集・発行／問合せ先
国立大学法人筑波大学
企画評価室
TEL 029-853-2047
Mail ki.hyoka@un.tsukuba.ac.jp